

小山町中学生の自衛隊職場体験



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は、10月26日（月）・27日（火）に小山町立小山中学校の生徒10人、28日（水）・29日（木）に同町立須走中学校の生徒16人が陸上自衛隊富士駐屯地（同町）で行った自衛隊職場体験を支援した。

これは両校から依頼があり実施したもので、見学や体験を通じて自衛官の仕事や活動への理解を深めてもらうとともに、地元中学出身の若年隊員とふれあうことで親近感や信頼感を感じてもらおうと行われた。

警務隊（自衛隊の警察）による指紋採取体験、整備部隊との塗装体験、地図を立体的に見る情報部隊での実体視鏡体験、災害時にも役に立つロープ橋を渡る体験などのほか、衛生部隊では心肺蘇生法を学び、自衛隊の幅広い仕事を体験した。

また昼食時には、駐屯地栄養士の説明を聞きながら、中学校OBの隊員と一緒に笑顔で食事を楽しんでいた。

そのほか、男女に分かれて営内隊員の居室や浴場などを見学し自衛官の生活環境について理解を深め、職場体験後半では、同駐屯地の富士学校音楽隊による音楽演奏や説明を聞くなど、充実した2日間となった。

静岡地本は、引き続き地元住民や学生に自衛隊の活動を紹介し、理解を深めてもらえるよう広報を実施していく。

海上自衛隊潜水医学実験隊を取材 県民に魅力をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は10月20日（火）、海上自衛隊横須賀基地（神奈川県横須賀市）に所在する潜水医学実験隊（以下、「潜医隊」という）を取材した。

同隊は、潜水に関する医学や心理学、人間工学などを研究し、潜水艦乗組員や潜水員の安全を確保するための実験・訓練を行う機関。静岡地本は各種イベントが中止される中、ホームページ等での自衛隊紹介動画に力を入れており、県内に基地のない海上自衛隊にも興味を持ってもらうよう取材を行った。

まず、深さ1メートルの水槽がある恒温水槽へ。水槽の水面は建物の地上4階部分に位置しており、縦横10メートルの屋内プールになっている。

この日は潜水艦乗員の脱出訓練が行われており、潜医隊隊員から潜水艦用脱出スーツの着方や注意点などの説明を受けている様子や、地下の脱出区画から潜水艦のハッチを模した脱出口を通過して水中に脱出し、潜医隊の潜水員によるエスコートで水面に浮上する様子などを動画に収めた。

次に、向かいの建物にある深海潜水訓練装置などについて、隊員が案内する様子を撮影した。同装置は「飽和潜水」を行うための装置であり、最大深度450メートルまで加圧した状態で訓練などを行うことができる。実際に訓練に参加した飽和潜水員3人のインタビューも行い、潜水員になったきっかけや訓練で大変だったこと、この仕事の魅力などをしっかりとアピールしてもらった。

最後に、減圧症やガス中毒などの治療を行う高気圧酸素治療室を撮影した。ここでは自衛隊横須賀病院を窓口として一般市民の治療も行っており、多岐にわたる自衛隊の任務を紹介した。

静岡地本は、今後も多くの県民に興味を持ってもらえるよう、動画やSNSを活用した広報活動に努めていく。